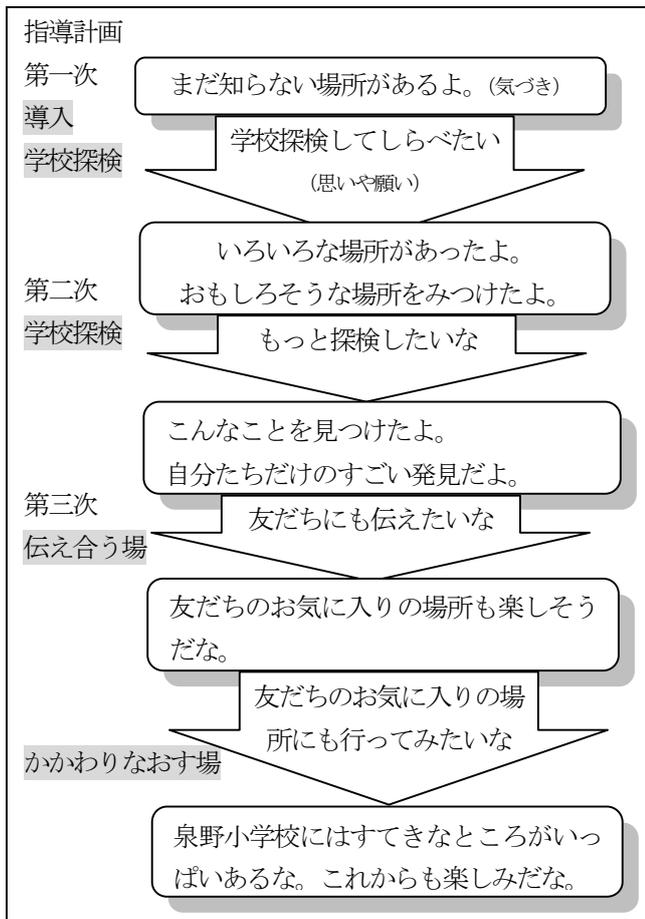


C-3 指導の工夫とその実際

気づきを大切にする指導方法の工夫 指導の実際より

① 児童が思いや願いを持ち、くりかえしかかわり合いたくなるような指導計画を立案する。



気づきと思いや願いは、スパイラルに互いに作用しながら学習活動を推し進めていくと考え、左図のように指導計画を立てた。

② 児童の思いや願いを引き出す導入

単元の導入では、子ども達はこれまでの学校生活・経験から知っている場所を出し合った。知っていることを話すことはどの子どもも言いたくてたまらないといった様子で、すごい勢いで手があがる。友だちが言い終わったか終わらないうちに手があがるのだ。しかし、ただ出し合うだけでは気づきは生まれないと考え、発言の後にはテンポよく「知っている人」「知らない人」と挙手で全員に聞きながら板書にまとめていった。全員知っている場所、まだ知らない人もいる場所とわけて書いていくと、全員が知っている場所の方が断然少ない。また、白地図を見るがどこがどの場所なのかはつきりせず、まだ出されていない場所もあった。このことに全員で気づく場を導入で設定することにより、学校を探検していろいろな場所のことを知りたいという思いや願いを引き出すことができた。

学校探検の始めは、屋上であった。学校のきまりでは、屋上で遊ぶのは4年生になってからで、それまでは先

生と一緒に遊ばなければ遊べない。このことを児童は4年生から聞いて知っていたので、とっても行きたがっていた。初めて上った屋上はとっても気持ちが良く、自分の家を探す子や、地面の模様で遊ぶ子など思い思いに楽しんだ。いつの間にか全員でハンカチ落としが始まり「楽しかった！」という思いでいっぱいのようなのだ。こんな探検のスタートは、これからの学校探検にとっても期待感をふくらませていったようだった。

③ 思いや願いをかなえる活動の工夫

第一次の学校探検は「学校にどんな場所があるのか全部見たい。知りたい。」という思いや願いがかなう活動である。ここでは、学校の施設の名前や場所がわかった満足感が感じられることと、もっと探検してみたい場所を見つけられることの2つを軸に活動の支援を考えた。

白地図を一人一人が持つことで「全部探検してこよう。」という意欲につながった。また、まだ探検していない場所があることに気づく手だてにもなった。しかし、地図を見て場所と教室の名前を照らし合わせることは、一年生にとって難しい。ワークシートに、角の部屋など場所をとらえるヒントとなる部屋を書き込み、地図の見方を説明して探検を行った。探検後、全体の場で教室の名前を白地図に書き込み確認した。1階探検の時に、まだはつきりわからないところがあったので、全員でもう1度確認しながらまわり、地図の見方を確認した。2階探検からは、探検しきれなかった場所は、休み時間に続きを行った。2階は特別教室が多く教室数も多いのだが、その分おもしろそうなところも多い。休み時間には楽しそうに「探検にいつてきま〜す。」と出かけていく児童がたくさんいた。

また、ひらがな学習が途中であるため、書くことにも個人差がある。ひらがなを読んだり書いたりすることの困難な児童(2名)には無理に全部を書くことはしないで、「どこを探検してきたの?」「どこが楽しかった?」など対話することで探検できた満足感が感じられるようにした。場所の名前を全部書けた児童、さらに見つけたことや思ったことを絵や文章で書き込むことができた子など様々ではあるが、「全部調べることができたね。」「こんなことも見つけて

きたんだね。」と認めていった。

「児童がもっと探検してみたい。」という思いや願いを持つためには、十分に調べすぎてもいけないが、おもしろそうな物やことがないこともいけない。児童がもっと探検してみたい場所として選んだ場所は、自由に出入りしやすかった場所、兄弟や友だちなど親しい人がいる場所、担当の先生とお話してかかわってきた場所などの傾向が見られた。児童が探検しやすいように先生方や上級生に協力していただいた場所もあるが、不十分な場所もあった。授業の妨げにならないように気をつけながらも、「この場所は、もっと見て欲しい！」という場所には、探検しやすい環境や人とのかかわりをしかけておくことが大切だと感じた。また、児童の見つけたことに一緒に驚いたり喜んだりし、積極的に声をかけていくことが大きな支援になることを感じた。

第二次の学校探検は「もっと探検してみたい」という思いや願いがかなう活動である。ここでは、新しい発見や人とのかかわりを通してお気に入りの場所への気づきを深めることと、友だちにも伝えたいという思いをふくらませていくことの2つを軸に活動の支援を考えた。

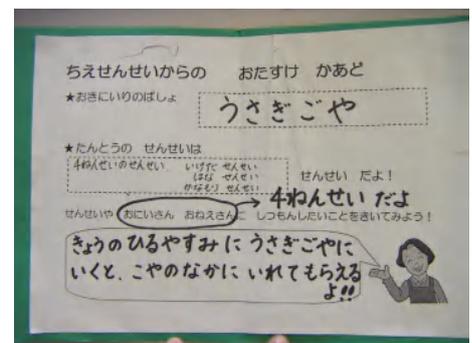
新しい発見ができるように、いろいろな感覚のマークをワークシートに記して意識して探検できるようにした。目や耳、鼻、心の他にも、人とのかかわりマークを記し、あいさつや質問しながら探検が深まるようにした。

しかし、場所によって発見が多くある場所や人とのかかわりが多い場所など様々である。同じ1時間の授業時間の中で、全てのグループが探検しやすい環境にあるとは限らない。実際、保健室や校長室には先生が、外には校務士さんがかかわってくださりたくさん発見があった。担当の先生もおらず授業でも用いていない場所は、のびのびと探検し自分なりに発見したことを喜んでいるが、新しい発見は少ない。また、授業で使用していても、数人の児童だけで他の学年の授業中の教室の中に入れてもらうことはとても緊張するようで尻込みしてしまうグループもあった。

そこで、グループ作りの際に、それぞれのグループに「先生からのおたすけカード」を渡し、担当の先生を知らせ、探検の糸口になるようなヒントを与え支援していくことにした。うさぎ小屋グループには「昼休みに4年生がお世話しているので小屋の中に入れてもらえるよ。」と、家庭室グループには、「月曜の1・2限には6年生が何かおいしいようなものを作るらしいぞ・・・！」など教えた。より気づきの多い探検になるように、授業時間だけでは十分に探検できない点を休み時間などを使って補い支援した。その場に立ち会い安心して探検ができるよう声をかけてあげることの大切さを感じた。

このように支援していくことが、「うさぎの名前はメイとライチだと4年生に教えてもらったよ。」「すぐに逃げてさわるのが難しかったけど、さわったら毛がすべすべだったよ。」とうれしそうに教えてくれたように、より多くの気づきを生むことにつながっていた。

また、「他のグループには秘密だよ。」とおたすけカードを渡したことにより、自分たちだけが見つけたことだという喜びいっぱいの表情で帰ってくる姿がたくさん見られた。「みんなどんなこと見つけてきたの？先生に教えて！」「わあ～！そんなこと見つけてきたの！すごいねえ！」と声をかけることにより、「他の友だちに伝えたい！」「他のグループはどこでどんなことを見つけてきたのか知りたい！」という思いをふくらませることができた。



おたすけカード

④ 伝え合う場の工夫

自分たちだけがお気に入りの場所で見つけてきたことをみんなに伝え合う活動でクイズを行った。「みんなの探検で見つけてきたこと教えてほしいし聞きたいね。でもどんなふうにみんなに伝えたらいいかな」と投げかけた。これまでに伝え合う方法を話してきたことがないため、教師の方から「せっかく秘密の探検をして見つけてきたことだから、クイズにしてもいいね」と投げかけた。クイズは給食時間に子どもたちが楽しんでいる遊びの一つだったので、すぐ「やってみよう」という気持ちになっていった。クイズ作りの際には、担当の先生やその場所とのさらなるかかわり合いを生むために、クイズの出し方の例を示した。ヒント1は気持ちを伝える。ヒント2は手や耳や鼻などをつかって見つ

けたことを言う。ヒント3は、目で見つけたことを実物を借りてきて見せるようにした。

何を借りてこようか、どんな気持ちだったか、などグループで話し合いを通して決めたことは、それぞれの見つけたことを伝え合ったり、自分自身への気づきを意識したりすることになる。「ヒントを一つ作れたら先生に見せてね。」と話していたので、ヒントごとに頭を寄せ合い、また探検に行ってみて見つけてきていた。

また、クイズの後には、お気に入りのわけも伝え合った。「2階体育館で、2年生がドッジボールをしていて楽しそうだったからぼくも2年生になったらしてみたいです。」や「大好きな本があるからです。」と本を見せるなどして、一人一人がみんなに伝えることにした。

【子ども達が考えたヒントと支援】

クイズ大会 その1	<p>2階体育館</p> <p>①広くて気持ちいい</p> <p>②バスケットボールがある</p> <p>③ヒイラギマークがある。</p> <p>写真を見せる</p> <p>元気もあり自信もあるグループを一番初めに出題者に選び、クイズの出し方の手本になるようにした。</p>	<p>図書室</p> <p>①おもしろい場所</p> <p>②静かな場所</p> <p>③くまのぬいぐるみを見せる。</p> <p>それぞれが自分のお気に入りの本を見せ紹介した。</p> <p>これからも本をたくさん読みたくなるねと声かけ。</p>	<p>校長室</p> <p>①あたまがよい先生がいてうれしい</p> <p>②金庫がある</p> <p>③トロフィーを見せる。</p> <p>◎校長先生にきて頂き、それぞれのヒントについてお話していただいた。</p>	<p>工作室</p> <p>①やってみたい</p> <p>②かなづちがいっぱい</p> <p>③きがいっぱい</p> <p>5年生の作品を見せる</p> <p>近くに集め見せたかったが時間が足りなかった。教室の後ろに並べ自由に見れるようにした。</p>
その2	<p>うさぎごや</p> <p>①かわいいもの</p> <p>②ふわふわするもの</p> <p>③これを食べる (にんじん)</p> <p>昼休みに遊びに行くことができることを知らせた。</p> <p>みんなも自由に遊びにいてもいいことを伝える。</p>	<p>ランチルーム</p> <p>①ちょっと食べたい</p> <p>②ちょっと広い</p> <p>③表彰状を見せる。</p> <p>招待状をもらい、今後の活動の期待感をもてるようにした。</p>	<p>保健室</p> <p>①最初はどきどきする。</p> <p>②カーテンがある。</p> <p>③ピンセットがある。</p> <p>◎保健の先生にきて頂き、ヒントについてのお話と安心して学校生活を送れるような声かけをしてもらった。</p>	<p>3の1と3の2</p> <p>①へえ〜って思っふしぎな気持ち</p> <p>②虫眼鏡がある</p> <p>③戸の前にアゲハの幼虫がいる。</p> <p>近くに集め見せたかったが時間が足りなかった。教室の後ろに並べ自由に見れるようにした。</p>
その3	<p>そと</p> <p>①にこにこになる</p> <p>②こたりの声が聞こえる</p> <p>③カリンやヒイラギの葉を見せる。</p> <p>◎校務士さんにきて頂き、学校になる木の葉の話をしていただいた。</p>	<p>家庭室</p> <p>①わくわく</p> <p>②おいしそうなおい</p> <p>③おちゃわんを見せる</p> <p>6年生がご飯とみそ汁を作っていたことを伝え、今後の学習に期待感を持つようにした。</p>	<p>理科室</p> <p>①どきどきした</p> <p>②いろいろなビンがある</p> <p>③重たい袋を持ち上げていた。</p> <p>大きなたこで重い袋を持ち上げる活動を入れ、5年生の理科の勉強をちょっとだけ紹介した。</p>	<p>6の3</p> <p>①うれしいのしい気持ち</p> <p>②字を書いたり色をぬったりしてお勉強していたよ。</p> <p>③お姉ちゃんの教科書を見せる。</p> <p>お姉ちゃんの制服の上着を借りてきて着てみる活動を入れた。</p>

【 ふりかえり「友だちのお気に入りの場所クイズを聞いてまた行きたくなった場所」より 】

<p>その1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所とその理由を書いている (23人) <p>友だちのヒントや校長先生の話から、見てみたいという思いを持つことができた。</p> <p>自分が発表したお気に入りの場所について、気づきなおしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所の名前だけかいている (7人) ・行きたくなった場所がない (2人) ・本時とは関係なく自分のお気に入りの場所について書いている (1人) 	<p>児童④ 工作室：早く工作をしてみたいです。 校長室：行ったことがないからです。 図書室：おもしろい本がいっぱいあるからです。 2階体育館：広いからです。</p> <p>児童⑤ 校長室：すごいものがいっぱいありそうだから。金庫が見たいから行きたいです。トロフィーも見たいから行きたい。</p> <p>児童⑥ 図書室：おもしろいから。絵本があるからおもしろい場所ですよ。やっぱり一番好きだよ。一番おもしろいから。</p> <p>新しい発見がなかった。あったとしても目を向けていない。</p> <p>児童⑦ ない：みんなかんたんだったから</p> <p>児童⑧ ない：コメントなし 思い浮かばず困った顔</p> <p>児童⑨ 外：ぐみやひらぎやざくろがあるから。ぐみは食べれるしざくろは食べれるしね。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
<p>その2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所とその理由を書いている (27人) <p>前時行きたくなった場所がなかった2人だけが自分なりに思いを持つことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所の名前だけ書いている (4人) ・行きたくなった場所がない (1人) ・本時とは関係なく自分のお気に入りの場所について書いている (1人) 	<p>児童⑩ うさぎ小屋：うさぎがかわいいから。うさぎの名前がかわいいから。それに4年生が入らせてくれるからです。</p> <p>児童⑦ ランチルーム：もう少し招待状を調べたいから。それと給食早く食べたいから。</p> <p>児童⑧ 3年2組：ぼくのおねえちゃんがいるから。</p> <p>児童⑪ ない (コメントなし) 対話：首をかしげて にやり・・・？</p> <p>児童⑨ 外：実があるから。それに食べれるし、ぐみやざくろやみかんやうめやひらぎがあるから。</p>
<p>その3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所とその理由を書いている (28人) <p>校務士さんのお話から思いを持っている。</p> <p>友だちの発表から自分の思いを想起して書いている。</p> <p>いろいろな感覚をつかってもっと探検したい思いを書いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所の名前だけ書いている (3人) ・行きたくなった場所がない (1人) ・本時とは関係なく自分のお気に入りの場所について書いている (1人) 	<p>児童⑫ 第2理科室：だってすごいのがいっぱいあるよ。 6の3：おねえちゃんの制服着させてもらうよ。</p> <p>児童⑬ そと：みかんの木を探したいな。くりの木に早く実がなってほしい。</p> <p>児童⑭ 家庭室：入ったらびっくりした。</p> <p>児童⑮ 家庭室：幼稚園の頃入ったことがありました。</p> <p>児童⑯ 外：外は遊べるし体がぼかぼかになるから。</p> <p>児童⑰ 家庭室：見てみたいから。さわってみたいから。大好きだから。おもしろいだよ。</p> <p>思い浮かばず困った顔。家庭室の発表をしていたので「同じになってもいいよ。」と伝えるが、行きたい場所が思いうかばなかった。</p> <p>児童⑧ ない (コメントなし)</p> <p>児童⑨ 外：ぐみやざくろやひらぎやくりやうめがあるから</p> <p>校務士さんの話から、くりが付け加わったが「ぼくはやっぱりこれだ。」とこだわる。単元のふりかえりも同じような内容を書きながら「なんだか同じことばかり書いてるな〜。」とつぶやいていた。「やっぱり外が一番なんだね。」と認めながらも「友だちの場所のことも聞いてみたら良さそうだよ。」と投げかけるにとどまった。今後の支援へ。</p>

友だちの発表から多くの児童が「また行ってみたい。」という思いをもつことができた。友だちのお気に入りのわけに自分もそうだと共感したり、これまでの経験や自分の思いを想起したりしていた。「行ったことがないから行きたい。」「したことがないからしてみたい。」と新たな気づきが次への意欲につながる児童も多くいた。ここで、また行ってみたい場所が見つからなかった児童には、次時で個別に支援を行っていくようにした。3回にわけて行ったクイズ大会であったが、どの児童もまた行ってみたい場所が見つかった。

教師からも、お気に入りのわけを伝える手助けとして、ゲストティーチャーとして校長先生、保健の先生、校務士さんをお呼びしお話を聞くことにした。お話はそれぞれのヒントから、そのわけなどをわかりやすく話していただくことができた。「トロフィーは金管クラブで泉野小学校ががんばった時にもらったんだよ。他にも学校にたくさんトロフィーがかざってあるよ。」とお話し「知ってる！金管クラブにお姉ちゃんがいるよ。」「見たことある！」など反応しながら耳を傾けていた。子どもたちが校長室で見つけたお花やソファについても「お客さんがたくさんおいでるから喜んでもらえるようにしているんだよ。」と説明し、教室の子どもたちにも花をプレゼントしてくださった。このように子どもたちの発見に、またその理由などが付け加えられていき、気づきを深めていくことにつながっていった。

クイズ後もしばらくの間、教室の後ろに実物を並べておくことにした。授業時間に十分に見れなかった児童も休み時間に手に取りゆっくり見ることができた。6年生の制服を代わる代わる着る子どもたちの姿や、「帰ったらぼくもお兄ちゃんの制服着させてもらおう！」とうれしそうに帰っていく姿、「5年生になったらこんな工作作ってみたい。」と工作で遊ぶ姿があった。

⑤ かかわり直す場の設定

クイズを聞いて、「また行ってみたい場所」を探検する場を持った。もう一度トロフィーを見に行く子、初めて理科室の中に入って棚の中をじっくりみる子など思い思い探検する姿が見られた。

行った場所と2種類の表情マークに色をぬる程度の簡単なワークシートを用いた。じっくり書くことよりもたくさんの場所を思い思いに探検してほしいと思ったからだ。しかし、かかわり直したことによる気づきや友だちへの気づきを見るという点では不十分なワークシートであった。そこで、単元のふりかえりは日記のような形式に思いを自由に書くワークシートを用いた。自分の探検した場所への思いをさらにふくらませている児童や、友だちのお気に入りの場所での新しい発見を書いている児童、さらに今後の学校生活を楽しみにしている児童の姿が多く見られた。

【 単元のふりかえり 】

・6がつ19にちに らんちる一むでごはんをたべたのがおいしかったよ。あと いくおくじょうにいくのかわすれたけど おくじょうにいくのがたのしみです。あと 6ねん3くみのへやをみてみたら ちょうちょうのようちゅうや かぶとむしのおとうさんのようちゅうや だんごむしとかそだてていてすごかったです。3ねん1くみと2くみと3くみのひとたちがすごかったです。

この児童は、全体的に作業がゆっくりで遅れがちなが多い児童である。1階探検の時に欠席したため授業時間に十分に探検ができなかった。3階探検のふりかえりに「1階2階をもっと探検したいよ。」と書いていた。ゆっくりではあるが自分の思いを持って探検していた。単元のふりかえりを書く時には、時間内に書けず「家でも続きを書きたい。」と持ち帰った。次の日の休み時間にも「続きを書きたいから紙を返して。」と取りに来ては、自分の思いを書いていた。

・りかしつがたのしかったよ。だっていろいろなことをしています。はやく6ねんせいになりたいです。はやくりかをやりたいです。はやくりかのべんきょうをしたいです。

友だちのクイズを聞き、6年3組にまた行きたいと書いていた。「お兄ちゃんみたいになりたい。」という気持ちと、理科室のクイズの内容から理科室にも関心が広がってきたようだ。理科室をもう一度探検し、思いをふくらませている。

・こうさくしつがそうじばだったけど、もっとわかったよ。たんけんをいっぱいしてたのしかったよ。ぜんぶががんばったよ。

毎日掃除している工作室だったけれど、単元を通してもっと分かった自分に満足している。後日保護者から、児童が

家で「クイズがとっても緊張したよ。でも工作室に行ってみたって言ってくれた人がいてうれしかった。」と言っていたことを聞いた。友だちに伝わったことへの喜びから、自分自身への気づきに高まっていくことができたようだ。

・こうちょうしつがたのしかった。おはなもそふあもあつてきもちよかったです。がっこうってこんなにおもしろいっておもってなかったよ。

ひらがながまだ十分に読んだり書いたりできず、対話を通して思いを聞き、声をかけていた児童である。他児よりも学校のことをよく知っていた児童であったが、単元を通して「こんなにおもしろいと思っていなかった。」と驚いた自分について気づいている。

単元が終わっても学校探検は続いている。3年生のお兄さんが「アゲハがさなぎからチョウになったので見に来ませんか。」と呼びかけにきてくれ、休み時間にみんなで見に行き、3年生の先生や上級生とのかかわりがクラス全体にも広がってきた。今では休み時間に自由に見に行っている。また、休み時間にうさぎ小屋をたずねていたり、授業でかわった先生たちにも親しげに話しかけていたり姿が増えてきている。